

- アンケート・ヒアリング・デスクトップにより下記項目の調査を実施し、本分科会での議論における基礎情報とする。
- 「Ⅰ.実態把握」および「Ⅲ.必要性・方向性、効果・コストの試算」については、物流事業者側⇒物流連（小委員会）、荷主事業者側⇒国交省の分担にて調査を実施し、それぞれの結果を本分科会に随時持ち寄ることとする。

調査事項（案）	主な調査方法
Ⅰ.実態把握	
(1) パレットの利用実態（業種別） ・パレット化率／パレットサイズ・スベック／保有パレット数量／レンタルパレット化率 等 ・トラック荷台、倉庫（特に自動倉庫）とパレット規格の関係性	アンケート ヒアリング
(2) パレット化が進まない／パレットサイズが異なることによる問題点 ・荷物の手積み手降ろしの発生／パレット間の積み替え作業の発生／（無駄な）作業発生による肉体的負荷の発生・長時間労働の要因／生産性の低下 等	アンケート
(3) パレット化が進まない／パレットサイズが異なる理由 ・荷主の取引条件／発注ロット／問題意識の欠如 等	アンケート
Ⅱ.事例調査	
(4) 海外でのパレット事情 ・海外のパレット化率＆サイズ／海外のパレット標準化の背景及び推進体制（EPAL、豪州、韓国のスキームなど）	デスクトップ ヒアリング
(5) 標準化推進方策の事例 ・パレット以外を含む標準化推進方策の成功事例、失敗事例	デスクトップ ヒアリング
Ⅲ.必要性・方向性、効果・コストの試算	
(6) パレット標準化の必要性 ・社会的背景（物流の低生産性、SDGs、カーボンニュートラル等への対応） ・国や業界団体の動き（総合物流施策大綱／Society5.0 等）	アンケート アンケート
(7) パレット標準化の方向性（荷主/物流事業者からの要望） ・例えば、T11型、T12型、ビールパレットの3種に集約することで標準化を図る 等	アンケート ヒアリング
(8) パレット標準化による効果・コスト試算 【効果】 物流/荷主事業者への直接的効果（労働環境改善、労働生産性・積載率・回転率の向上、省人化効果、企業評価等）／社会的効果（CO2削減、経済効果等） 【コスト試算】 パレットの買い換え、パレットの規格変更に伴うサプライチェーン上の設備投資コスト試算 等	ヒアリング
(9) パレット標準化に向けた今後の課題（まとめ）	